

## 「センター試験」を知ろう！

通称「センター試験」は、独立行政法人である大学入試センターが主催する試験で、大学進学希望者の高校段階の学力到達度を判定することを主目的としています。国公立大学のすべてと、私立大学の約9割が利用する国内最大規模の試験です。問題はどの出題科目も、全国平均点が6割程度になるように作問されており、難問・奇問を排した良質な問題中心に構成されています。一方で、試験時間に比して問題量が多いため、基礎レベルとはいえ、十分な対策も必要となる試験です。

### Q1.どんな試験？

- 6教科30科目の中から選択受験するマーク式テスト（次の表にある出題教科・科目の中から、受験生は志望大学・学部等の指定に従い、教科・科目を選んで受験する。特に理科は、①[基礎を付した科目]と②[基礎を付していない科目]の2グループに分かれ、科目選択の方法が複雑なので要注意。模試の段階から、受験科目の間違いないよう、細心の注意が必要です）

表：「2019年大学入試センター試験」出題教科・科目

教科	出題科目	試験時間(配点)	教科	出題科目	試験時間(配点)
国語	国語	80分(200点)	理科	① 物理基礎 化学基礎 生物基礎 地学基礎	[理科①] 2科目選択 60分(100点)
地理 歴史	世界史A 世界史B 日本史A 日本史B 地理A 地理B	1科目選択 60分(100点)		② 物理 化学 生物 地学	[理科②] 1科目選択 60分(100点) 2科目選択 130分(200点) <うち解答時間 120分>
	公民	現代社会 倫理 政治・経済 倫理、政治・経済	2科目選択 130分(200点) <うち解答時間 120分>	外国語	英語 ドイツ語 フランス語 中国語 韓国語
数学	① 数学I 数学IA	60分(100点)	注) 理科は次の4種類の選択方法のうちから1つ選び解答する(選択方法は出願時に申請。 A: 理科①から2科目 B: 理科②から1科目 C: 理科①から2科目及び理科②から1科目 D: 理科②から2科目		
	② 数学II 数学IIB	60分(100点)			

- 国公立大学のすべて、私立大学の約9割が利用する共通試験（国公立大の一般入試では原則、「センター試験」と大学ごとに実施する「個別（2次）試験」の合計点で合否を判定。私立大では、各大学で独自に行う個別一般入試とは予め定員を分けて、「センター試験のみ」と「センター試験+独自試験」で選択を行っている。割合では前者の方式が多い）
- 2018年1月のセンター試験では、出願者数は58万2,671人、現役高校生の約45%、大学受験生の約8割が出願した！（不動岡高校では例年ほぼ100%が出願する）

### Q2.どの科目の受験者が多い？

- ◇ 英語の受験者数は約55万人、国語の約52万人がこれに続く。国公立大が課す標準的なパターンである5教科7科目型の受験者数は29万6,661人で、センター試験受験者の約54%に達する。
- ◇ 「地理歴史&公民」2科目受験者（主に国公立文系志望者）では、日本史Bを軸とした選択が多い。最も多いのが「日本史B+現代社会」で、以下に「日本史B+政治・経済」「日本史B+倫理、政治・経済」「地理B+現代社会」「世界史B+倫理、政治・経済」と続く。
- ◇ 理科の「選択方法（左頁の表右下の注参照）」別受験状況は、パターンA（基礎2科目：36.9%）、B（発展1科目：8.8%）、C（基礎2科目+発展1科目：5.0%）、D（発展2科目：49.3%）。Aの内訳では、最多が「化学基礎+生物基礎」で、「生物基礎+地学基礎」がこれに続く。Dでは、最多が「物理+化学」、「化学+生物」がこれに続く。

### Q3.平均得点率は？ 目標得点率は？

- センター試験では、どの科目も原則として教科書の範囲内で出題される。国公立大学で最も多い「5教科型」での平均得点率は、ここ5年間は60%弱で推移している。国公立大志望者は、5教科での得点率で70%以上、難関大を目指すなら80%以上の得点が目標となる。
- センター試験で得点率80%を突破すれば、「センター高配点の国公立大志望者は、逃げ切り合格の可能性が高まる」「旧帝大・医学部など難関国公立大の激戦入試で勝負できる」「余計な重圧から解放され、落ち着いて2次試験に臨める」「センター試験利用入試で、ひと足先に私立大の合格を確保」等、大学受験全体を有利に展開することが可能となる。

### 今やるべきセンター対策学習戦略 ～成功した先輩たちから学べ！～

- ① 敵を知り、己を知る！出題&現状分析で対策方針を得る。（過去問分析⇒自分に必要な学習計画を考え、今後の対策の大枠をイメージ！）
- ② 夏休み中までに基礎を徹底強化し、得点の土台を固める。（丸暗記ではなく理解を！）
- ③ アウトプット学習を常に取り入れ、「解く力」を鍛える。
- ④ 弱点を見逃さない！記録&反復学習で、確実に解消する。（×正解したから問題なし）
- ⑤ 目標⇒計画⇒管理で、やるべき対策を完全クリア！（プラン設計と自己管理）
- ⑥ 常に効率を意識！ムダを徹底排除し、時間を最大活用する。（目標達成に必要なか否か・優先順位・スキマ時間・集中力・学習密度）

夏休み以降の「応用力養成期（9&10月）」「実戦力養成期（11&12月）」に大きく飛躍するために、夏休みまでの「基礎力養成期」のいまを大事にすること。部活を引退してからでなく、部活を引退するまでの過ごし方が勝負の分かれ目です。先ずは6月9日（土）実施のベネッセ・マーク模試へ向けた準備を始めましょう！！